

## 会 告

学会・CPD 機構 入会キャンペーン実施中 .....	70
平成 18 年度会員名簿の掲載事項について .....	71
平成 18 年度農業土木学会大会運営委員会ポスター賞について .....	71
平成 19 年度農業土木学会賞候補の推薦について .....	71
農業土木学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてお願い.....	72
学会誌掲載報文等による通信教育の本格運用について.....	72
国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお願いと国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」について.....	73
国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと編集事務局（投稿先）の韓国移転のお知らせ.....	73
農業土木学会誌への投稿お待ちしております！.....	74
身近にある水利遺構で表紙を飾ろう！！「農業土木学会誌」平成 19 年夏季用の表紙写真の募集 .....	75
新シリーズ「水利遺産探訪」の原稿募集.....	76
第 35 回中国四国支部研修会・第 30 回地方講習会の開催について 	76
第 45 回土壌物理研究部会研究集会 	78
平成 18 年度農村道路研究部会研究集会および現地研修会開催のお知らせ 	78
台湾農業工程学会主催，PAWEES 共催による持続的水環境に関する国際会議の発表者募集について .....	79
第 5 回農村研究フォーラム開催要領.....	80
<b>学会記事</b> .....	81

### 第 74 巻 10 号予定

展望：古代歌謡に学ぶ農村景観：中野 芳輔

#### 報文

- 混合マサ土を用いた老朽ため池改修について：酒井 俊典他
- 大口径 PC 管路の継手不良実態と要因検討：馬場 慎一他
- 湖底のヘドロを表面で曝気した後，湖底に戻す湖底浄化法：酒本 義司他
- 乾田直播栽培を実施した水田における浸透量の実態：久田 宗昌他
- ほ場整備事業に伴う希少種保全対応とピオトープの計画設計施工：近田 昌樹他
- スリット井戸の揚水より透水係数の推定に関する研究：磯島 義一
- 人口減少時代の地域資源戦略：早瀬 吉雄

#### レポート

ブラジルにおける燃料エタノールの生産・利用の現状と評価（LCA 手法によるサトウキビからの燃料エタノールの Well to Wheel 評価）：小林 久他

#### 技術レポート

- 北海道支部：はまなか地区における浄化型排水路の整備について：大杉 周作他
- 東北支部：コウモリと共生する水路トンネルの改修工法について：鹿糠 幸治
- 関東支部：既設水路トンネルの補修工事について：青木 弘
- 京都支部：生態系に配慮した農業水路用「魚巢樹」の開発：田谷 哲也
- 中国四国支部：重要伝統的建造物群「落合集落」における取組について：犬伏 敏真
- 九州支部：農業用水路トンネル改修について：平木場 昌貴

講座：水士文化への誘い（その 8）水士文化の表し方：山本 徳司

小講座：CPD：佐藤 寛

私のビジョン：海外研究と山村暮らしから見えること：長野 宇規

農業土木学会（本部）行事の計画

農業土木学会（本部）行事について、下表のように計画しています。奮って参加下さるよう、お待ちいたしております。

Ⓜのマークが付されているものは農業土木技術者継続教育認定プログラム、または認定申請中を表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成 18 年 10 月 11～12 日	九州支部	第 29 回地方講演会 第 37 回支部研修会	Ⓜ	佐賀市アバンセ	74巻6号 8号
平成 18 年 10 月 15 日	土壌物理研究部会	第 45 回研究集会	Ⓜ 期待される土壌物理学（仮題）	北海道大学（予定）	74巻9号
平成 18 年 10 月 24～25 日	九州支部	第 87 回支部講演会・シンポジウム	Ⓜ	ウェルシティ宮崎	74巻7号 8号
平成 18 年 10 月 25 日	北海道支部	第 56 回研究発表会	Ⓜ	帯広市とかちプラザ	74巻7号
平成 18 年 10 月 25～26 日	東北支部	支部総会・第 50 回研究発表会 第 40 回支部研修会・第 30 回地方講習会	Ⓜ	山形県高度技術開発センター	74巻7号 8号
平成 18 年 10 月 26～27 日	関東支部	第 57 回支部講演会	Ⓜ	前橋市	74巻6号 8号
平成 18 年 10 月 26～27 日	中国四国支部	第 61 回支部講演会	Ⓜ	米子コンベンションセンター	74巻6号 7号
平成 18 年 11 月 1～2 日	農村道路研究部会	平成 18 年研究集会	Ⓜ	プラザ万象（敦賀市）	74巻8号 9号
平成 18 年 11 月 9 日～10 日	京都支部	第 63 回支部研究発表会	Ⓜ	大阪リバーサイドホテル	74巻5号 7号
平成 18 年 11 月 15～16 日	中国四国支部	第 35 回支部研修会 第 30 回地方講習会	Ⓜ	松山市男女共同参画推進センター	74巻7号、8号 9号
平成 18 年 11 月 16 日～17 日	水文・水環境研究部会	第 19 回シンポジウム	Ⓜ 農林地および広域の水文・水環境	島根大学	74巻5号
平成 18 年 11 月 22 日	北海道支部	第 33 回研修会	Ⓜ	札幌市北大学術支流通会館	
平成 18 年 11 月末	農業水利研究部会	平成 18 年度研修会	Ⓜ（未定）	東京都	
平成 18 年 12 月 4～5 日	応用水理研究部会	平成 18 年度講演会	Ⓜ 農業土木分野における応用水理学に関する研究	岐阜大学	
平成 19 年 2 月 1 日	北海道支部	講習会	Ⓜ	札幌市北大学術支流通会館	
平成 19 年 2 月 （予定）	材料施工研究部会	第 44 回シンポジウム	Ⓜ 構造物の損傷に関する非破壊探査（予定）	兵庫県神戸市（予定）	
平成 19 年 3 月	水土文化研究部会	シンポジウム	Ⓜ 水土文化研究の現在（仮題）	つくば農林団地（予定）	

学会・CPD 機構 入会キャンペーン実施中

（社）農業土木学会・農業土木技術者継続教育機構

農業土木学会（学会）および農業土木技術者継続教育機構（CPD 機構）では、平成 18 年 6 月 6 日～9 月 30 日の間“入会キャンペーン”を実施しています。キャンペーン期間中、学会の正会員および学生会員に入会された方、および学会と CPD 機構に同時入会された方に、下記の割引特典があります。この機会には是非ご入会をお願い致します！

キャンペーン期間 平成 18 年 6 月 6 日（火）～平成 18 年 9 月 30 日（土） 締め切り迫る

特典内容

A) 学会に新規入会した正会員の平成 18 年度年会費を半額とします

9,600 円 キャンペーン特価 4,800 円(66 歳以上は 2,400 円)

B) 学会および CPD 機構へ同時入会された正会員には、さらに

CPD 機構への入会金 1,000 円を免除致します

\* 入会時に同時入会である旨お知らせ下さい

(通常) 9,600 円 + 1,000 円 + 2,500 円 = 13,100 円

学会年会費 機構入会金 機構年会費

(キャンペーン特価)

4,800 円 + ~~1,000 円~~ + 2,500 円 = 7,300 円

学会年会費 機構入会金 機構年会費 (66 歳以上は 4,900 円)

C) 学会に新規入会した学生会員には、農業土木標準用語事典の購入価格を割り引きます

(学部学生の場合)

通常：学会年会費 2,500 円 + 用語事典 4,500 円 = 7,000 円

キャンペーン期間：学会年会費 2,500 円 + 用語事典 2,300 円 = 4,800 円

(大学院生の場合)

通常：学会年会費 5,500 円 + 用語事典 4,500 円 = 10,000 円  
 キャンペーン期間：学会年会費 5,500 円 + 用語事典 2,300 円  
 = 7,800 円

入会方法はお電話、または E-Mail にて下記へお問合わせ下さ

い。

社団法人農業土木学会 会員担当 花塚 賀央  
 ☎03 3436 3418 E-Mail hanatsuka@jsidre.or.jp  
 農業土木技術者継続教育機構 吉本 峰子  
 ☎03 5777 2098 E-Mail mineko@jsidre.or.jp

### 平成 18 年度会員名簿の掲載事項について

平成 18 年度版の当学会会員名簿の発行に係る掲載事項については、個人情報の保護に関する法律の規定に基づき、従来どおり当学会の「会員名簿の発行に伴う個人情報の扱い」により対処しますので、掲載事項としている下記の事項について、掲載に同意されないものがあれば、会員番号と氏名を明記のうえ、郵便、E-Mail またはファックスで、10月20日(金)までにご連絡下さい。(記載項目については削除する、その全部または一部を掲載しない場合を含め、前年度と変更ない場合は除く。)

なお、ご連絡がない場合は、18年度新規加入会員にあっては掲載に同意されない事項がないものとし、その他の会員にあっては昨年同様とさせていただきます。

記

会員名簿掲載事項

【氏名】 【会員番号】 【出身校】 【卒年】  
 【資格】 【勤務先及び役職】 【自宅住所】  
 【自宅電話番号】

連絡先

郵便の場合：〒105 0004 東京都港区新橋 5 34 4

農業土木学会 花塚宛

E-Mail の場合：hanatsuka@jsidre.or.jp

ファックスの場合：03 3435 8494

(参考)

会員名簿発行に伴う個人情報の扱い

以下の項目を遵守することによって、個人情報取扱義務を全うする。

1. 利用目的の特定、利用目的による制限  
 農業土木学会会員名簿の作成業務及び会員管理にのみ利用し、この範囲を超えて利用しない。
2. データ内容の正確性の確保  
 個人情報の正確性、最新性を確保する
3. 安全管理措置、従業者、委託先の監督  
 安全管理のために、学会職員、印刷業者等に対して必要かつ適正な監督を行う。
4. 第三者提供の制限  
 名簿は、(社)農業土木学会定款第6条に定める会員及び同会員が所属する機関に限り原価にて頒布する。

### 平成 18 年度農業土木学会大会運営委員会ポスター賞について

本年度の農業土木学会大会講演会(会場：宇都宮大学)において、若手研究者を対象としたポスター発表を試行致しました。28名の方が口頭発表と同一の内容をポスターで発表し、次の3名が「ポスター賞」として大会運営委員会表彰されました。「AE法を用いた繰返し曲げ載荷による石綿セメント管破壊挙動評価」

説明者：日本大学生物資源科学部 鈴木 哲也氏  
 「循環灌漑による濁水負荷削減」

説明者：京都大学大学院農学研究科 濱 武英氏  
 「水田は赤土流出のシンクかソースか? 水田が赤土流出に果たす機能に関する研究(1)」

説明者：宇都宮大学大学院 福永 隆二氏

### 平成 19 年度農業土木学会賞候補の推薦について

平成 19 年度の農業土木学会賞(上野賞、沢田賞を除く)を、第 74 巻 6 号、p 69 の募集要項に則って、推薦書によりご推薦下さい。

締切りは、平成 18 年 10 月末日となっております。推薦書様式は学会 HP をご参照下さい。

## 農業土木学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてのお願い

### 農業土木学会災害対応特別委員会

農業土木学会では、近年における地震、豪雨等による災害が各地に発生し、農地・農業用施設等に甚大な被害をもたらしている状況に鑑み、それら災害の原因究明、復旧対策工法の採用等に対する支援を行う組織として、災害対応特別委員会を設置しています。

この災害対応特別委員会では、農地・農業用施設に甚大な被害が発生した自然災害、学術的見地から緊急調査が必要と判断される自然災害に対して、災害発生後、直ちに災害対応調査団を派遣し、調査の実施、復旧支援を行う体制を整備しています。

そこで、災害対応調査団を組織しなければならない事態が生じた時に、早急に対応できるよう、調査団のメンバーを希望される方に事前に登録の申請をお願いします。審査の結果、登録された会員は、災害対応調査団候補者名簿(2年毎更新)に記載して、緊急災害等の場合に現地調査を行って頂きます。

なお、災害対応調査団の団員の資格および派遣の条件は以下のとおりです。

調査団の団員は、高度な専門知識を有する農業土木学会員とする。

調査団員は、候補者名簿にリストアップされた者から選定する。

調査団の派遣期間は、原則2~3日とする。

調査団派遣に関わる旅費は、農業土木学会が後日精算する(年度予算限度額300万円)。

調査団員に対して、調査に必要と考えられる保険を掛ける。

調査団は、調査結果を速やかに報告する。

上記の趣旨をご理解のうえ、学会事務局宛 FAX 03 3435 8494, E-mail saigai@jsidre.or.jp でお申込み下さい。様式は農業土木学会ホームページ(<http://www.jsidre.or.jp>)よりダウンロードし、お申込下さい。多数の応募をお待ちしております。

なお、登録頂いた個人情報、災害対応調査にのみ活用し、適切に取扱います。

## 学会誌掲載報文等による通信教育の本格運用について

### 農業土木学会行事企画委員会

### 農業土木技術者継続教育機構通信教育部会

通信教育の試行を平成18年10月まで延長することとしておりましたが、11月より本格運用することといたしました。是非、通信教育にご参加いただきたく、お願い申し上げます。

#### 1. 参加会員の募集

参加をご希望の学会会員で、かつCPD機構会員の方は、農業土木学会のホームページ(<http://www.jsidre.or.jp>)にある参加申込書に必要事項を記載してメール(E-mail:cpd@cpd.jsidre.or.jp)あるいはFAX(03 5777 2099)でお送り下さい。

これまで試行に参加いただいていた方は、改めてお申込まないでください。

なお、この機会に農業土木学会、継続教育機構への入会を希望される方は、同様にホームページ(<http://www.jsidre.or.jp>, <http://www.jsidre.or.jp/cpd>)に申込様式がありますので、ご記入の上お申し込みください。

#### 2. 申込期限

参加は、いつからでも可能です。

#### 3. 事務局

事務局は、機構の評価委員会内部に設置する部会および機構事務局が担います。

#### 4. 内容

問題は3カ月前の学会誌の報文等から、機構通信教育部会が作成し掲載します。

問題は択一式で、毎回10問出題します。報文の事実的内容から作成し、回答はメールで機構に返信していただきます。

採点の結果、7割正解で1CPD、満点で1.5CPDが与えられ、継続教育記録として自動的に登録されます。

回答は技術者倫理に則り、自らの責任において作成していただきます。

#### 5. 参加費

学会会員のための行事の一環として実施するため、学会が必要経費を負担しますので、当分の間、通信教育参加費は無料です。

## 国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお願いと 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」について

農業土木学会では、2003年1月に日本、韓国、台湾を中心としたアジアモンスーン地域の農業土木関連学・協会および各国際機関等と連携して、新たな国際学会(国際水田・水環境工学会; International Society of Paddy and Water Environment Engineering: PAWEES)を設立、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊、2006年3月末にはVol.4 No.1(Special issue: Challenges and Opportunities for Sustainable Rice based Production Systems)が発刊されました。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関する研究論文、技術論文が多数掲載されますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。たくさんの方が国際学会へ入会されることを望みます。

掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑(水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水(排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全(土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全(水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能(洪水調節, 地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全(水生, 陸生動植物の生態系)

- ⑦ 地域計画(農村計画, 土地利用計画など)
- ⑧ バイオ環境システム(水田農業と水環境, 土壌環境, 気象環境)
- ⑨ 水田の多目的利用(田畑転換, 施設園芸)
- ⑩ 農業政策(農村振興, 条件不利地の支援策など)

水田農業を通じた国際的な研究交流, 情報交換の場として, 皆様の国際学会への入会をお勧めします。

国際学会に入会されますと, 会員には国際ジャーナルが, 無料で配布されます。

出版社: Springer-Verlag 社(ドイツ)

発刊スケジュール: 2003年3月創刊, 以後3カ月ごと

国際学会会費: 正会員 12,000円/年/4冊(送料等学会負担)

学生会員(院生含む) 8,500円/年/4冊(送料等学会負担)

申込先: 農業土木学会編集出版部 馬目宛

ホームページ: <http://www.jsidre.or.jp>

入会のお申込みは, 学会 HP(<http://www.jsidre.or.jp/publ/ij/scope.htm>)の「5. APPLICATION FORM FOR THE REGULAR MEMBER」にご記入のうえ, メールまたはFAXでお申込みいただけます。

## 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 編集事務局(投稿先)の韓国移転のお知らせ

農業土木学会では、2003年1月に日本、韓国、台湾を中心としたアジアモンスーン地域の農業土木関連学・協会および各国際機関等と連携して、新たな国際学会(国際水田・水環境工学会; International Society of Paddy and Water Environment Engineering)を設立し、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊、2006年3月末にはVol.4 No.1(Special issue: Challenges and Opportunities for Sustainable Rice based Production Systems)が発刊されました。

我が国においても学術誌の評価に、SCi(Science Citation Index)のIF(Impact Factor)が利用されており、本国際ジャーナルでもIFの取得により高い評価の定着を目指しています。

また、世界13カ国からEditor(14名)を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名なSpringer Verlag社からの刊行です。

掲載論文は、Review, Article, Technical ReportおよびShort Communicationの4種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに、SCI獲得のため

に年4回の発行としております。投稿者は国際学会員に限りませんが、**投稿料, 掲載料などを無料**として投稿者の負担を軽くするように配慮されています。

**編集事務局の移転:** 2003年1月の学会設立以来、農業土木学会が編集事務局を担って参りましたが、2006年1月1日からは新Editor in Chief; 中野芳輔九州大学教授の下、韓国農業工学会が今後3年間(～2008年12月31日まで)、編集事務局を担当することとなりました。

これに伴い、Editorial Panelの構成メンバー(編集体制)および新投稿先が下記ようになります。

ただし、2005年12月末までに投稿された原稿は、日本(農業土木学会)の責任において進められ、Acceptされたものが韓国事務局へ引き渡されることとなっております。

皆様方の多数の投稿を期待しております。

**新投稿先:** PWE Chief Managing Editor, Dr. Soon-Jin HWANG  
International Society of Paddy and Water Environment Engineering (PAWEES)

KOFST - Main Building # 205

635-4 Yeoksam-Dong, Kangnam-Gu, Seoul 135-703, Korea.  
Tel : +82 2 562 3627, 562 3613 Fax : +82 2 565 6821  
Email : sjhwang@konkuk.ac.kr, pawees@ksae.re.kr (will be made shortly)

(During Jan.2006 to Dec.2008)

**編集方針**：水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としている。

その分野は、水田農業地帯における灌漑と排水、土壌保全、土地資源や水資源の保全と管理、水田の多面的機能、農業政策、地域計画、バイオ環境システム、生態系の保全、水田保全、田畑輪換等である。

**編集体制** 2006 .1 .1 ~ 2008 .12 .31 )

- Editor in Chief : Prof. Dr. Yoshisuke Nakano ( Japan )  
The Graduate School of Bioresource and Bioenvironment Sciences, Kyushu University, Japan
- Editors 13 国から 14 名
- Editing Board 32 名
- Managing Editors

Chief Managing Editor : Dr. Soon-Jin HWANG  
Department of Environmental Science, Konkuk University, Seoul, Korea

Dr. Yutaka MATSUNO

Faculty of Agriculture, Kinki University, Nara, Japan

Dr. Masaru MIZOGUCHI

Department of Global Agricultural Science, University of Tokyo, Tokyo, Japan

Prof. Dr. Tsugihiko WATANABE

Research Institute for Humanity and Nature (RIHN) Kyoto, Japan

Prof. Dr. Ke-Sheng CHENG

Department of Bioenvironmental System Engineering, National, Taiwan University, Taipei, Taiwan, Rep. of China

**出版社** : Springer Verlag 社 (ドイツ)

**投稿資格** : 筆者全員が国際学会員であること。

**投稿要領等** : <http://www.jsidre.or.jp> に詳細を記載しています。

## 農業土木学会誌への投稿お待ちしております！

### 農業土木学会誌編集委員会

### 自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業土木学会ホームページに掲載の「農業土木学会誌投稿要項」、  
「農業土木学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿ください。

### 学会誌 75 巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 締 切 ( A4判 1 500 字以内 )	原 稿 締 切 ( 刷り上り 4 ページ厳守 )
74 巻 10 号	公募なし	
11 号 モニタリング技術の最前線 ( 仮 )	公募終了	
12 号 北海道における大規模畑地整備 ( 仮 )	公募なし	
75 巻 1 号 「水土の知」について ( 仮 )	公募なし	平成 18 年 8 月 15 日
2 号	公募なし	
3 号 新潟県中越地震の復興対策と危機管理 ( 仮 )	平成 18 年 9 月 25 日	平成 18 年 11 月 15 日

今後取上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集いたします。なお、小特集がテーマは仮題となっておりますものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、刷り上り 4 ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたします。

送付先 〒105 0004 東京都港区新橋 5 34 4 ( 社 ) 農業土木学会 学会誌編集委員会あて

☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494 E mail henshu@jsidre.or.jp

### 75 巻 3 号テーマ「新潟中越地震の復興対策と危機管理 ( 仮 )」

新潟中越地震は農村地域に甚大な被害を及ぼした。地震発生から約一年半以上が過ぎた現在でもなお、仮設住宅で生活する人は未だに多く、旧山古志村では全住民 690 世帯のうち避難解除 1 年を迎えた今も帰宅した住民は 114 世帯にとどまっている。中山間地の農地の復興対策も進められてきたが、被害状況の甚大さから完全な復興には至っていない。阪神淡路大震災が都市型の災害で

あったのに対して中越大震災は農村地域に起きた震災であり、農業・農村対策にとって多くの問題を提起している。

農業土木学会でも、中越地域の災害復興研究に強い関心を持ち、緊急調査等の支援体制をとるなど新たな体制整備が行われてきた。また、農業土木分野においても、中越地震に関する研究があらゆる視点から精力的に行われている。

本号ではこのような状況をふまえ新潟県中越地震における危機管理と復興対策と題して特集いたします。要旨締切がせまっておりますので、新潟県中越地震以降、行政あるいは産学で行われて

きた危機管理、今後の復興対策に関する研究、今後懸念される農村地域での地震に備えた提言等に関する報文の投稿をお考えの方は、至急事務局にお問合せ下さい。

## 「オフィス便り」・「キャンパス便り」・「私の勤める本」の原稿を募集しています！

学会誌には、会員の職場や学校を紹介するコーナーとして、「オフィス便り」・「キャンパス便り」・「私の勤める本」を設け、随時募集しております。多くの会員が身近な情報を提供することにより、学会誌を親しみやすいものにするとともに、気軽に投稿できるコーナーとして活用していただきたいと考えております。

内容は、学会誌としての特徴を持ちつつ、他の機関誌とは違ったもので、できるだけ学会に関係のある内容、たとえば、

**オフィス便り**は、「事業実施において特色ある技術の導入」・「技術的に工夫した点」や「地域の魅力」、「技術者継続教育」・「技術

力の向上」・「技術者倫理」など。

**キャンパス便り**は、「研究室の研究内容」・「学科紹介」など。

上記の内容を中心に、より広く事業や地域、また大学や研究室の紹介、その他の取組み状況を含めて、職場、学校として特徴のあるものを募集しています。奮ってご投稿ください。

原稿の長さは、**刷上がり1ページ1,800字程度**で、写真を1~2枚程度入れてください。

**私の勤める本**は、原稿の長さ：1,200字（写真・体裁等含む刷り上がり1ページ以内原稿には表紙の写真を含めて下さい）

### 身近にある水利遺構で表紙を飾ろう!! 「農業土木学会誌」平成19年夏季用の表紙写真の募集 農業土木学会誌編集委員会

学会誌編集委員会では、平成19年も皆さまからの写真で表紙を飾ることとしました。テーマは「水利遺構：先人たちの技術と苦労が垣間見える造形美」とします。

下記の要領で、学会誌第75巻(平成19年1~12月号)のうち、特に夏季の表紙写真を募集します。ふるってご応募ください。

#### 記

#### 1. 趣旨

これまで農業土木技術による構造物は、過酷な自然の猛威にさらされながらも、農業経営、防災などの面で人々の生活を支えてきました。これら用水路、頭首工、堰堤などの水利施設は、それぞれの機能を十分に発揮しながら年月を重ねていくことで、水を制御するという力強さに、そして周囲の自然景観にとけ込むことで、その美しさに磨きがかかってきます。

先人たちが遺してくれた多くの構造物の中には、かけがえのない風景を生み出す文化遺産とも言うべき名高いものもありますが、私たちが身近で目にする農村地域にも、規模は小さくとも凛として美しい文化的な技術遺構がいくつも存在しています。

皆さんの目にとまった構造物で、「先人たちの技術と苦労が垣間見える造形美」を、学会誌の表紙写真で紹介ください。

#### 2. 写真の種類

単写真、組写真いずれもカラープリントで六ツ切り。デジタルカメラの場合はJPEG ファインモードまたはTIFF モードに設定し、撮影してください。入選の際にはデジタルデータをお送りいただく場合があります。組写真の場合は、そのことを明記してください。

#### 3. 枚数

応募写真には制限がありませんが、未発表のものに限ります。

#### 4. 締切 平成18年9月29日(夏季の写真)

#### 5. 注意点

応募された被写体の季節が極端に偏ることから、今年は募集する季節ごとに締切を設けさせていただきました。ご注意ください。

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、水利構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれる(花などの情緒物に埋没しない)、デジタル画像の場合で解像度が不十分で表紙に拡大してドット崩れしない、ことが採用の条件となります。

#### 6. 審査

審査委員会(編集委員と写真家)で選びます。

#### 7. 結果発表

学会誌75巻1号で入賞者と掲載号を発表し、入選作品は、平成19年度大会会場でパネル展示します。

#### 8. 賞品

入選作品1点につき3万円(表紙掲載料含む)。応募者には記念品をお送りします。

#### 9. 応募資格

学会員でなくとも結構ですので、周囲の方々にもお勧めください。

#### 10. その他

応募写真の裏面にタイトル、郵便番号、住所、氏名、年齢、職業、電話番号、性別、写真のテーマ、撮影場所、撮影月日、撮影データ(フィルム、使用カメラ等)を記入して下さい。対象物の名称(固有名詞)、対象物をめぐる歴史的背景等の説明(いつ、だれが、どうして等)もお寄せ下さい。

原則として、応募写真は返却いたしません。なお、入選作の著作権は、(社)農業土木学会に属します。

## 11. 宛先

〒105 0004 東京都港区新橋5-34-4 (社)農業土木学会  
農業土木学会誌編集委員会「表紙写真公募」係

## 新シリーズ「水利遺産探訪」の原稿募集

### 農業土木学会編集委員会

農業土木学会誌ではこのたび新シリーズ「水利遺産探訪」を開始し、第1弾として会員の松本精一(財)建設物価調査会総合研究所部長が投稿された「(京都の)桂川「一の井堰」物語」を掲載しております。つきましては、本シリーズに掲載する原稿を広く会員の皆様から募っておりますので、奮ってご投稿いただくようお願い申し上げます。

わが国では、古来、先人の知恵と努力により多くの農業土木に関係した水利施設が造成されてまいりました。「温故知新」という言葉がありますが、「農業土木」を改めて知るために、ふるき水利遺産をたずね、先人の歩んだ道をふりかえることは重要なことであると考えています。そして、ふるき水利遺産にこめられた先人の「水土の知」を、未来で活かしていくための「未来へのメッセージ」としてまとめていきたいと考えております。

また、海外協力の分野においては、土地改良区を中心とする日本の灌漑排水システムが良きモデルとして注目されており、海外で日本の経験を如何に適應させるかが求められています。そのためにも、我々の先人の知恵と経験を他国で活用できるように整理することが必要になっていきます。

農業土木学会では、過去、「水土を拓いた人びと」を発刊した他、石狩川、北上川等の各水系農業水利誌(史)を発行してまいりました。今回のシリーズでは、会員の方に親しまれる内容のものを目指したいと考えており、取り上げる内容についても、構造物だけに限らず計画や人物などに焦点をあてたものも含めて幅広いものにしていきたいと考えております。

ご投稿は会員の皆様が書きやすい任意のテーマでお願いします。シリーズ名は「水利遺産探訪」ですが、「排水」や「干拓」に関連したものや、比較的最近のものを扱っていただいてもかまいません。お近くや過去携わったことのある水利施設等をテーマに気軽にご投稿下さい。

なお、投稿は何時でも受け付けておりますが、今回の京都の次は「江戸の水利遺産・遺構」がテーマのものを先ず掲載したいと考えています。分量の制限はございませんが、分割して掲載させていただくこともありますので、あしからずご理解頂ければ幸いです。

皆様の多数のご投稿をお待ちしております。

## 第35回中国四国支部研修会・第30回地方講習会の開催について

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



中国四国支部第35回支部研修会・第30回地方講習会を11月15日(水)、16日(木)の2日間にわたり、開催いたします。本研修会・講習会の開催要領・参加申し込みについては下記のとおりです。多数のご参加をお待ちしております。

### 記

#### 1. 課題

- (1)支部研修会:『農村地域における地域資源の保全と活用について』
- (2)地方講習会:『土地改良事業設計指針「ため池整備」の解説』  
『「環境との調和に配慮した事業実施のための調査計画・設計の技術指針」の解説』  
『「農業農村整備事業における景観背景の手引き」の解説』

#### 2. 日時

- (1)支部研修会:平成18年11月15日(水)10:30~17:00
- (2)地方講習会:平成18年11月16日(木)10:00~15:10

#### 3. 場所

松山市男女共同参画推進センター(愛称:コムズ)  
〒790 0003 愛媛県松山市三番町6-4-20  
☎089 943 5776 FAX 089 943 0460

#### 4. プログラム

11月15日(水) 支部研修会  
「農村地域における地域資源の保全と活用について」  
9:30~ 受付開始  
10:30~10:50 開会あいさつ  
11:00~12:00 「農村地域における環境資源」  
愛媛大学農学部教授 櫻井 雄二  
12:00~13:00 [ 昼 食 ]  
13:00~13:50 「農地・水・環境向上対策について」  
農村振興局整備部地域整備課  
農地・水・環境保全向上対策室課長補佐  
山村 研吾

- 13:50~14:50 「地域を動かすバイオマス利活用」  
農村工学研究所資源循環システム  
研究チーム長 柚山 義人
- 14:50~15:10 [ 休 憩 ]
- 15:10~16:00 「地域用水機能増進事業活動事例」  
道前平野土地改良区工務課工務係長  
徳永 耕治
- 16:00~16:50 「町並から村並へ、そして山並へ」  
内子町産業建設課産業振興班長  
久保 義雄
- 16:50~17:00 閉会あいさつ

- 11月16日(木) 地方講習会  
『土地改良事業設計指針「ため池整備」の解説』  
『「環境との調和に配慮した事業実施のための調査計画・設計の技術指針」の解説』  
『「農業農村整備事業における景観背景の手引き」の解説』

- 9:30~ 受付開始
- 10:00~10:10 閉会あいさつ
- 10:10~11:10 「環境との調和に配慮した事業実施のための調査計画・設計の技術指針」の解説  
農村振興局企画部事業計画課長補佐  
鈴木 孝文
- 11:10~12:10 「農業農村整備事業における景観背景の手引き」の解説  
農村振興局企画部事業計画課長補佐  
鈴木 孝文

- 12:10~13:00 [ 昼 食 ]
- 13:00~15:00 土地改良事業設計指針「ため池整備」の解説  
農村振興局整備部設計課施工企画調整室  
(設計基準班)  
京都大学大学院農学研究科教授  
青山 咸康

- 15:00~15:10 閉会あいさつ  
講師の都合により、スケジュール等を変更する場合があります。

5. 参加費等

(1) 支部研修会

区 分	参加費	昼食代	合 計
会 員	2,000円	1,000円	3,000円
非会員	3,000円	1,000円	4,000円

(2) 地方講習会

区 分	参加費	昼食代	合 計
会 員	3,000円	1,000円	4,000円
非会員	4,000円	1,000円	5,000円

6. 問合せ先

愛媛県農林水産部農業振興局農地整備課設計係  
関谷, 門田, 大塚  
〒790 8570 愛媛県松山市一番町4 4 2  
☎089 912 2540(直通) 089 941 2111(代表)  
FAX 089 921 9579  
E mail: sekiya katsuji@pref.ehime.jp

7. 参加申込方法

- (1) 申込書 所定の申込様式により所属機関ごとに取りまとめ、お申込み下さい。
- (2) 申込締切日 平成18年10月10日(火)
- (3) 参加費の納入方法 参加申込と同時に次の銀行口座に全額前納をお願いします。
- なお、振込後の参加費用等の返還には応じられませんのでご注意ください。

【申込様式】

中国四国支部研修会・地方講習会参加申込書

所属機関 \_\_\_\_\_

所在地(〒 \_\_\_\_\_)

連絡者氏名 \_\_\_\_\_

TEL \_\_\_\_\_

FAX \_\_\_\_\_

所属	氏名	会員 区分	【15日】	【15日】	【16日】	【16日】	合計 (円)	農業土木 技術者継続 教育機構 個人会員
			支部研修会 2,000円 (3,000円)	昼食代 1,000円	地方講習会 3,000円 (4,000円)	昼食代 1,000円		
計		会員 非会員	人 人	人	人	人	円	

注) 出席および必要な場合は 印、欠席および不要な場合は×印をご記入下さい。( ): 非会員

農業土木技術者継続教育機構の個人会員の方は右端の欄に 印をご記入下さい。

振込手数料については、振込人負担をお願いします。

【振込口座】 振込先 愛媛銀行 県庁支店  
口座番号 普通 0576833  
口座名称 支部研修会 地方講習会  
実行委員会 関谷克二

(4) 参加申込先

愛媛県農林水産部農業振興局農地整備課設計係  
関谷, 門田, 大塚  
〒790 8570 愛媛県松山市一番町4 4 2  
☎089 912 2540(直通) 089 941 2111(代表)  
FAX 089 921 9579  
E mail: sekiya katsuji@pref.ehime.jp

8. 宿泊案内

宿泊の斡旋・手配は行いませんので、各自でお申込み下さい。

9. 交通アクセスご案内

JR 松山駅より 徒歩約10分

松山空港より 車約 20分

遠慮願います。

当施設には会議用の駐車場はありませんので、車での来場は御

**第45回土壌物理研究部会研究集会  
期待される土壌物理学**

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



開催日時：平成 18 年 10 月 15 日（日）9：30～15：00

場所：北海道大学農学部大講堂

**プログラム**

部会長挨拶

東京大学教授 宮崎 毅

1. 文化財保存科学からの期待

東京文化財研究所保存科学部部长 石崎武志

2. 作物学分野からの期待

東京大学大学院農学生命科学研究科，  
生産・環境生物学専攻教授 根本圭介

3. 水理地質分野からの期待 地下水の水質汚染（仮題） -

北海道立地質研究所 （交渉中）

4. 地球物理学からの期待 永久凍土地帯の物理探査（仮題）

宮城大学食産業学部助教授 原田鉦一郎

5. 寒冷地農業からの期待 凍結を伴う寒冷地農地の温度・水環境

北海道農業研究センター 鈴木伸治

6. 総合討論

閉会挨拶

次期部会長（予定）三重大学教授 取出伸夫

**平成 18 年度農村道路研究部会研究集会および現地研修会開催のお知らせ**

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



平成 18 年度 農業土木学会農村道路研究集会および現地見学会を福井県敦賀市で開催いたします。多くの方々の参加をお待ちしています。

1. 主催：農業土木学会農村道路研究部会

2. 日時

【研究集会】

平成 18 年 11 月 1 日（水）13：00～17：00

【現地見学会】

平成 18 年 11 月 2 日（木）9：00～13：00

3. 場所

【研究集会】 プラザ万象（敦賀市）

〒914 0047 敦賀市東洋町 1 1

☎0770 22 9711

【現地見学会】

福井県嶺南振興局管内広域営農団地  
農道整備事業若狭西地区

4. 内容

< 広域農村道路のトンネルの工事 >

【研究集会】（平成 18 年 11 月 1 日）

13：00～13：05：会務報告

13：05～16：30：

基調講演：道路トンネルの施工と管理

中川浩二（臨床トンネル工学研究所）

講演 1：トンネルの設計と施工

鈴木雅行（間組）

講演 2：トンネルの施工管理の実際

河上清和（五洋建設）

講演 3：新しいトンネル安定化工法

武内秀木（臨床トンネル工学研究会）

講演 4：技術報告『若狭工区のトンネル施工』（福井県農林部）

16：30～17：00：質疑

【現地研修会】（平成 18 年 11 月 2 日）

『広域営農団地農道整備事業若狭工区』

5. 参加費

【研究集会】 ¥6,000

【現地研修会】 ¥4,000

6. 参加の申込み締切り日

2006 年 10 月 20 日（金）PM 5：00

7. 宿泊施設の案内

インターネットで検索いただきたい。

8. 参加申込み方法

下記の申込み様式に記入の上、参加の申込みをお願いします。

2006 年度 農業土木学会農村道路研究部会研究集会および現地研修会参加 申込書

氏名		
所属		
電話番号		
メールアドレス		
所在地		
研究集会	参加（出席料，資料代）¥6,000	不参加
現地研修会	参加（バス代，資料代）¥4,000	不参加
参加料（合計）		
参加費支払い方法		
領収書の宛先		
CPD 番号		

【申込み先】

〒183 5809

府中市幸町 3 5 8 東京農工大学農学部内

農村道路研究部会事務局 加藤誠（宛）

☎/FAX : 042 367 5756

E mail : mkato@cc.tuat.ac.jp

(e mail でお願ひします。)

【会費の支払い方法】

会費は原則として、前納をお願いいたします。銀行振り込みの

場合は以下の金融機関にお振込みください。

三井住友銀行経堂支店(店番号 597)

名義：農村研究部会会計

竹内康(タケウチ ヤスシ)

普通 597 6610166

**台湾農業工程学会主催，PAWEES 共催による持続的水環境に関する国際会議の発表者募集について**  
**2006 International Conference on Sustainable Water Environment**  
**November 30-December 2, 2006, Taipei, TAIWAN,R.O.C**

1. 台湾農業工程学会から表記会議につき、下記の呼びかけがなされ、農業土木学会に学生会員からの発表者選考を依頼してきた。

「(開催の趣旨)

水資源の持続的管理は、今世紀、政治的、経済的、技術的、学術的な分野において、重要な課題となっています。水資源の配分、水資源技術開発、河川流域の管理戦略、洪水/干ばつ防止対策、国際会議や国際的協力による近隣諸国や地域の水の保護の分野での経験や技術の交流などは、水管理技術の発展に本質的に重要なことです。

近年、台湾は水供給と水環境に関する建設的エンジニアリングのプロジェクトについて、深い経験を積み重ねてきました。

日本は、自然災害防止の分野で指導的立場にある国の一つであることは、誰もが認めるところです。

韓国は、ソウルの Cheonggyecheon River の復旧事業の成功が国際的にも承認されています。

2003 年以降、この 3 カ国の専門家が共同で設立した International Society of Paddy and Water Environment (PAWEES) により、水資源マネジメントに関する緊密な協力体制が確立されました。

この国際協力を更に強く進めていくために、「2006 International Conference on Sustainable Water Environment (ICSWE)」を台北にて開催いたします。

1) 日 時 : 2006 年 11 月 30 日 ~ 12 月 4 日,

2) 場 所 : 台湾台北市

3) プログラム : 学会ホームページ参照

4) 講演発表の募集 :

下記のテーマに即した講演発表を募集します。

1. Watershed management
2. Flood/drought mitigation
3. Non-point source pollution
4. Paddy irrigation and drainage
5. Paddy multifunctionality

6. Reservoir operation

7. Introducing major water resources engineering project

8. Ecologically-sound water resources management

9. GIS and remote sensing applications

10. International collaboration on Education of Water Environmental and Engineering

11. Other issues related to water environmental

2. 農業土木学会国際委員会は、1. の依頼を受け以下の要領で希望者をつのり、選考を行うこととした。

講演発表を希望される方は、講演内容の要旨(日本語 500 字以内)を提出ください。なお、農業土木学会学生会員(学部生、大学院生)に限ります。

講演内容の要旨(日本語 500 字以内)には、タイトル(日本語、英語とも)、発表分野(上記 1. の 1. ~ 11. の番号)、氏名(共著者とも)、所属(共著者とも)、連絡先(住所、TEL、FAX、E mail)をご記入下さい。

送り先 : E mail でのみ受付します。tkiku@jsidre.or.jp にお送り下さい。

要旨締切 : 平成 18 年 9 月 20 日(水)必着

採否 : 国際委員会内に設置した審査委員会において、応募者の中から 6 名を採択いたします。

採否については応募者全員に連絡いたします。採択された方には原稿を提出いただきます(原稿締切 : 平成 18 年 10 月 31 日(火)必着)。

3. その他

この会議は学生中心の会議とし、準備や本会議の進行や口頭発表についても、活発な国際的協力への参加を促すため、参加国の大学院生により運営されます。

外国から参加する全ての学生に対し、航空運賃を除いた全ての費用は、台湾の組織委員会によって支払われます。(台湾への渡航往復旅費および日本国内の旅費は自己負担でお願いいたします)

使用言語は参加者全員英語で行います。

**第5回農村研究フォーラム開催要領**  
**農村は頑張る 農村再生の新たな潮流を生む**

農村地域の活性化のためには、農村の個性・多様性を活かしつつ、都市と農村との間で人・もの・情報の行き来を活発化し、新たな社会経済活動を促すことが重要であるとの観点から、有識者による講演とパネルディスカッションを通じて、農村の再生のための資源にも視座を広げながら、農村研究の姿・かたちを明らかにすることを目的に標記フォーラムを開催します。

**記**

**日時**:平成18年11月30日(木) 13:00~17:00  
**場所**:秋葉原コンベンションホール(秋葉原ダイビル内2階)東京都千代田区外神田1-18-13  
**主催**:独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構農村工学研究所  
**共催**:(予定)農業土木学会,農村計画学会,農村生活学会,日本造園学会  
**後援**:(予定)農林水産省,日本学術会議農村計画学研究連絡委員会,日本民俗学会

**1. 開会の挨拶**

独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構  
 理事長 堀江 武  
 農村工学研究所長 宮本 幸一

**2. 講演**

都市農村交流の課題と展望(仮題)  
 齋藤章一(財)都市農山漁村交流活性化機構専務理事  
 (元関東農政局長,国土庁審議官,構造改善局計画部長)  
 農・林・水が一体となった流域経済圏の構築(仮題)  
 両角和夫 東北大学大学院教授  
 (元農業総合研究所農業構造部長)

都市農村交流の社会システムの構築(仮題)

石田憲治 農村工学研究所農村総合研究部

全国に見るむらの希望と潮流(仮題)

甲斐良治(社)農山漁村文化協会 増刊現代農業編集主幹

**3. パネルディスカッション**

テーマ:農村再生のための地域マネジメントはいかにあるべきか(仮題)

パネラー:上記講演者,ほか(検討中)

進行役:高橋 順二 農村工学研究所農村総合研究部長

**4. 閉会の挨拶**

事務局 農村工学研究所企画管理部業務推進室 ☎029 838 7678

その他 参加費無料

講演の題名およびパネルディスカッションのテーマは仮題ですので,御注意願います。

**農業土木学会選書16**

**高生産性水田農業と基盤整備**

—その事例と展望—

(社)農業土木学会発行

**目次**

I. 本編	第11章 大区画圃場整備と乾田直播 —福島県原町市高地区—
第1章 直播栽培の技術	第12章 大区画圃場整備と乾田直播 —千葉県印旛沼地区—
第2章 高生産性水田の管理技術	第13章 圃場整備を契機とした集落営農 —新潟県三島町三島南部地区—
第3章 稲作機械化の新技術	第14章 乾田直播栽培—福井県春江町姫王地区—
第4章 高生産性水田における水管理技術	第15章 不耕起乾田直播栽培の適用例 —岡山県岡山市幸田地区—
第5章 大区画水田の基盤整備技術	第16章 大区画圃場の整備と先進的低コスト水田農業 の確立—広島県大和町福田地区—
第6章 大規模水田経営と生産組織 —国際化と日本稲作農業の対応方向—	Ⅲ. 資料編
第7章 農政の国際規律と土地改良	第17章 パネルディスカッションの記録 「高生産性水田農業と農業基盤整備の展開」
Ⅱ. 事例編	第18章 高生産性圃場の整備技術 —岡山県鍋島実験農場—
第8章 植民区画の再整備 —北海道深川市新千代第6地区—	第19章 圃場整備の事業制度の変遷
第9章 大区画圃場整備事業を契機にした集落農業の 再編—岩手県紫波町土館地区—	
第10章 大区画圃場整備と農地の利用集積 —山形県遊佐町月光川右岸地区—	

A 5判 約200ページ 定 価3,400円(内税・送料学会負担)  
 会員特価2,800円(内税・送料学会負担)  
 [会員特価は,個人会員による前金購入の場合のみ適用されます]

申込先 〒105-0004 港区新橋5-34-4  
 (社)農業土木学会  
 ☎03-3436-3418 FAX03-3435-8494